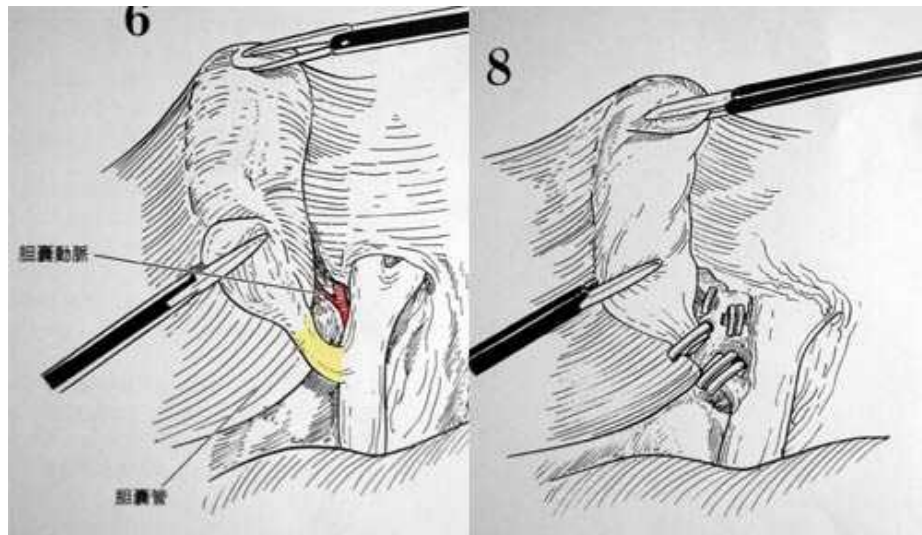


腹腔鏡下胆嚢摘出術

胆嚢結石、胆嚢炎、胆のうポリープに対しては腹腔鏡下胆嚢摘出術（お腹に小さい穴を開けて行う）が標準治療として確立されています。腹腔鏡下胆嚢摘出術は開腹手術と比べ、1)手術創が小さいため痛みが少ない2)手術時間が短いいため早期退院が可能といった利点があります。

腹腔鏡下胆嚢摘出術の当院の方法

- ①腹部に4ヶ所 1cm~0.5cm の穴を開け炭酸ガスでお腹を膨らませます。
- ②胆嚢動脈を確認しクリップをかけ切断します。
- ③胆嚢管を確認しクリップをかけ切断します。
- ④胆嚢を取り出します。



必要に応じて術中胆道造影を行い、総胆管結石の有無を確認します。総胆管結石の存在が術前から明らかな場合、手術中に明らかになれば、内視鏡を飲んでいただき十二指腸側から総胆管の結石を取り出すこともあります。

退院は術後約4-5日目(総胆管結石症では2-3週間)です。しかし術式によって入院期間は延長する場合があります。

術中に種々の理由で腹腔鏡下胆嚢摘出術が困難と判断した場合は開腹手術に移行します。また、病理組織検査で切除した胆嚢に悪性腫瘍が見つかった場合(約2.5%)は、後日開腹手術が必要になることがあります。